

創清会ニュース

創清会事務局
羽島市
江吉良町719-1

松井市長 平成30年を輝く羽島市へ



松井聡市長

新市庁舎の建設推進

市民アンケート、7割賛成

平成30年が幕を開けた。新しい年を迎える中、羽島市の魅力にいつそうの磨きをかけて「平成30年を輝く羽島市へ」と、松井市政に対する期待は大きい。松井聡羽島市長は、昨

年末の創清会員と触れ合いを深めるツアーで、当面の市政の課題について、スポーツ都市づくり、新市庁舎問題など次のように語り、強力なリーダーシップでけん引していく

決意を表した。

【東京オリンピック・ク・ホストタウン】

東京オリンピック・パラリンピックで羽島市はスリランカのホストタウンとして認定を受けた。キャンプ地で

◆思い出の写真をお分けします
創清会初の日帰りバスツアーは、年末を飾る楽しい旅となりました

た。会員が分乗した全13台の集合写真を掲載しましたが、掲載写真をご希望の方は創清会の各支部長までお申し

割の貯金で後の9割の大部分が補助や起債で手当てされる仕組みができた。今の庁舎を耐震工事すれば25億円かかる。しかも補強によ

はないところがホストタウンに認定されたのは羽島市が全国で初めて。大会終了後にスリランカの選手が羽島市に来て、市内の小中学校の児童・生徒と交流するというストーリーが評価されたもので、市職員の若手によるサポート体制で取り組むことになっている。キャンプ地が期待されるテコンドーはもとより、こうしたスポーツ交流に将来とも力を入

って面積が狭くなる。新築しても4、50億円。残せという意見もあるが、外部専門家委員による検討委員会から新庁舎建設の答申を受け、市民アンケートの結果は、72%が建て替えるを判断、現庁舎保存は6%だった。市議会に庁舎建設特別委員会が発足したが、市民の判断に基づいてスピードアップして新庁舎建設に取り組みたい。

創清会 初の日帰りバスツアー 親睦、交流深める

創清会は12月2日、会員の親睦、交流を図る初めての日帰りバスツアーを行った。会員530人がバス13台を連ねて初冬の伊勢路を訪ね、お伊勢さんと夫婦岩の参拝や海鮮御膳を楽しんだ。

バスは各支部毎に出発、東名阪御在所SAに集合、一路南下し、午前11時に伊勢神宮内宮に到着した。神宮では正宮に参拝、今年のお礼参りをしてどの顔もすっきり。週末のこの日、おかげ横丁も大

賑わい、気の合った仲間と食べ歩きや土産を買って楽しんだ。この後、夫婦岩のある二見ガ浦へ回り、バスの号車ごとに市長を囲んで記念写真を撮影、続いて一堂に会しての食事、各テーブルで会話が弾んだ。帰路は午後3時前に出発、鳥羽市と亀山市のショッピングセンターに立

ち寄り、午後7時ごろ帰った。松井市長は市政報告を兼ねて13台のバスをSA間で乗り継ぎ、市政の当面の課題をわかりやすく説明、理解を得た。初の後援会ツアーに参加者からは「たぐさんの友たちと出掛けることができよかった。会の恒例行事にしては」などと話していた。



初冬の「伊勢路」を満喫



1号車



2号車



3号車



4号車



5号車



6号車

仲間と思い出また一つ



7号車



8号車



9号車



10号車



11号車



12号車

重要政策に全力

新年のごあいさつ

市民と正確な情報共有

新年明けましておめでとうございます。
 創清会会員の皆さま方には、平成30年の輝かしい年をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

現在の日本社会は、急速な少子高齢化の進展による社会構造の変化への対応が迫られて

このような中で地方行政には、情報を正確に市民の皆さま方にお伝えするとともに、バランスのとれた行政運営を推進することが求められています。

テーマごとに、最適な事業のあり方を公開の場で議論しました。私は、このような取り組みを積極的に進めることが、羽島市まちづくり基本条例の理念である「市民を主体としたまちづくり」につながるものと考えております。

事業の選択と集中で

「羽島市の未来を創る」



市民と正確な情報を共有し、確かなプランで羽島市の飛躍を目指す松井市長

ウンミーティングを開催いたしました。11のコミュニティセンターで開いた33回のタウンミーティングでは、市民と行政が正確な情報を共有し、意見交換を行い、政策決定を進めてきたところです。1月にも「子どもとお年寄りの福祉」「健幸増進の取り組み」をテーマにしたタウンミーティングを予定しています。

一方では、さらなる行政改革の推進を図るため、昨年9月に「事業仕分け」を実施。各



13号車



バスツアーで訪れた伊勢神宮内宮の正宮前で創清会員と一緒に写真を撮る松井市長(前列真ん中)